

中学「総合的な学習の時間」事前学習としての情報モラル指導実践

八木橋 毅¹⁾¹⁾北海道教育大学大学院教育学研究科¹⁾yagihashi@et.asa.hokkyodai.ac.jp村田 育也²⁾²⁾北海道教育大学教育学部旭川校²⁾ikuya@et.asa.hokkyodai.ac.jp

1. はじめに

中学校では、各教科や総合的な学習の時間等において、コンピュータを利用する機会が年々増えている。中学2年生の80.4%が学校でインターネットを利用しているが、学校での情報モラルの指導は50%を切っている⁽¹⁾。中学校における実用的な情報モラル指導の内容と方法が求められていると言える。

本研究では、総合的な学習の時間の探求活動の事前指導として、情報モラル指導を学年別に段階的に計画して行い、探求活動における生徒らの自己評価や相互評価などを通して、その学習効果を明らかにする。

2. 総合的な学習の時間における「探求」

北海道芦別市立啓成中学校では、2002年度から総合的な学習の時間の中の約50時間を使って「探求」が行われている。生徒に課題設定の力、課題追究の力、まとめる力、発表する力、自己を見つめる力を養わせることを目的とした、生徒の興味・関心を生かした選択制による学習である。

「探求」では、生徒らは、学年縦割りの小グループを分かれて、テーマを決めて活動する。インタビューや写真撮影などによる情報収集、プレゼンテーションやWebページ作成で情報発信を行っている。2004年度の「探求」における探求活動(10~11月)では、インターネットで情報収集する際に、情報の信憑性を疑わずに単一情報を鵜呑みにする生徒や、収集した画像や文章を適切な手続きをすることなくプレゼンテーション用に加工し発表する生徒が多く見受けられた。

2004年度の反省から、総合的な学習の時間の探求活動の事前学習として情報モラル等の指導を行い、情報の取り扱い方や活用方法についての知識と態度を生徒に身につけさせる必要があると考えた。教科

での指導ではなく、探求活動の事前学習として情報モラル指導を行うことにより、学んだ知識を実際の探求活動で生かすことができる。そのため、取材時のマナー、著作権や肖像権などを全く考えずに活動してしまう問題を解決するために、探求活動の事前指導として情報モラル教育の計画を立てた。2005年度の総合的な学習の時間「探求」のカリキュラムを表1のように立て、探求活動の事前指導として各学年とも3時間を使って情報モラル指導を行った。

表1 総合的な学習の時間「探求」カリキュラム

月	内 容	時数	活動単位
4 7	・オリエンテーション 「総合的な学習の時間」について グループ学習・体験学習等について 事前学習 『職業』大グループについて 事前学習 『環境』大グループについて 事前学習 『福祉』大グループについて 事前学習の感想、反省、礼状作成等 課題選択、学習課題の具体的内容の検討	20	生徒全員
夏休み ~個々で具体的内容についての基礎資料集め~			
8	・大グループ別会議 代表・副代表の選出 具体的内容の交流 大グループ別研究課題の作成	2	大グループ
	・小グループ別研究課題の作成 ・小グループ別「体験学習」の計画立案 ・体験学習先「候補」決定・依頼の仕方 ・取材の仕方指導	2	小グループ
9	・体験学習先決定・依頼 ・発表方法についての相談 ・図書館、パソコン室の使用の確認	4	小グループ
	・情報モラル指導	3	クラス
10 11	・体験学習最終確認 ・日程、質問等の整理 ・探求活動 ・体験学習 ・グループ別研究課題のまとめ	14	小グループ
12	・グループ別発表会(全員発表)	3	大グループ
	・全校発表会(一般公開)	4	生徒全員
	・今年度の反省 ・評価用紙の記入	1	個人

3. 情報モラル指導実践

3.1 実践環境

北海道芦別市立啓成中学校は、各学年2学級、全校生徒数134名の中程度の規模の中学校である。情報モラル授業は、コンピュータ教室において、著者の一人(八木橋)が行った。コンピュータ教室には、生徒1人1台ずつのパソコンが配置され、前面に情報黒板が備えられている。

3.2 事前指導の長所

総合的な学習の時間で情報モラル教育を行う方法は2つある。学習活動をしながら折りに触れて指導する方法と、事前に指導する方法である。本授業実践は前者の方法で行った。その長所として、次の3つをあげることができる。

1. 予め学んでほしい内容を準備しておくことができる
2. 生徒全員に同じ指導をすることができる
3. 他の教員との間で共通理解を図ることができる

3.3 実践方法

実際の探求活動で想定される活動内容を吟味し、それらに必要となる情報モラル項目を整理した上で、

表2のように学年別に段階的に情報モラル指導項目を作成した。

1年生は中学校では初めての探求活動となるため、校外学習先で取材を行う際のマナーや、得た情報の取り扱い方について身につけさせる。また、事前に行った調査では、社会科でインターネットを用いた調べ学習を行っていたが、情報モラルに関する指導は行われていなかったため、生徒には情報の信憑性を確かめる態度も身につけさせる。

2年生は前年度の経験をふまえた探求活動を行うことができるので、情報収集時のマナー等は省略した。それに代わって、インターネットや書籍、校外学習先で得た情報を活用するためのルールや発表物作成時に注意しなければならない著作権や肖像権等について身につけさせる。

3年生は技術科で学んだMicrosoft PowerPointによるプレゼンテーション資料の作成や、ホームページ作成の知識を生かして、聞き手を意識したプレゼンテーションの作成や、著作権や肖像権等のルールを意識する態度を身につけさせる。

表2 情報モラル指導項目学年別一覧

	1 学 年	2 学 年	3 学 年
単 元 名	情報の収集と収集した情報の取り扱いについて	収集した情報の活用方法について	マナーとルールを守ったプレゼンテーションについて
取材時のマナー	<ul style="list-style-type: none"> ・電話をかける際には、相手の立場や気持ちを考える。 ・電子メールを送る際には、相手の立場や気持ちを考える。 ・校外学習先で人や著作物の写真を撮る場合は許可を取る。 		
著 作 権	<ul style="list-style-type: none"> ・校外学習先で得たインタビュー記録や資料等を、その著作者に無断で使用しない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・盗用(本や雑誌、ホームページなどの内容の丸写し)は行わない。 ・他人の著作物(写真や資料など)を利用するときは、引用のルールを守る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・盗用(本や雑誌、ホームページなどの内容の丸写し)は行わない。 ・他人の著作物(写真や資料など)を利用するときは、引用のルールを守る。 ・発表資料等の著作物について、理解する。(共同著作物)
肖 像 権	<ul style="list-style-type: none"> ・校外学習先で事前に了解を得ることなく撮影した、人の写真を無断で使用しない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校外学習先で撮影した人の写真は、許可を得て使用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人が写っている写真を、その人の許可なく使ってはいけない。
個 人 情 報 プライバシー情報	<ul style="list-style-type: none"> ・校外学習先で得た個人情報やプライバシー情報は、本人の許可なく、第三者に公開しない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校外学習先で得た個人情報やプライバシー情報は、許可なく第三者に公開しない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報やプライバシー情報は、許可なく第三者に公開しない。 ・人や会社の悪口やうわさ話を書かない。
情 報 の 信 頼 性	<ul style="list-style-type: none"> ・1つのホームページの情報だけを信用しない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数のメディアの情報を比較・検討し、真偽や新旧、信頼性を確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の真偽や新旧、信頼性を正しく理解し、発表に適した情報を選択する。
発表時のマナー			<ul style="list-style-type: none"> ・文字はなるべく大きくする。 ・見やすい色使いを心がける。 ・アニメーションを使いすぎない。

4. 評価

探求活動の事前指導としての情報モラル指導実践について、探求活動を通して行った生徒の自己評価と相互評価および小グループ指導担当教員によるコメントによって、その学習効果を評価した。

生徒に対して、事前学習や探求活動、発表を行った後に「ふりかえりシート」による自己評価を行わせた。「ふりかえりシート」による自己評価は図3に示した時期に行い、各活動の時間を振り返り、どのようなことを、どこで、何をを使って、どのように調

べたのかを振り返り、分かったことやできたこと、残った疑問、課題について整理するとともに、著作権や肖像権、個人情報などを意識した活動を行うことができたかについて評価した。学習成果物発表後は発表者の自己評価だけではなく、マナーとルールを守った発表ができたかについて相互評価を行った。また、教員は情報モラル指導の効果が生徒の活動に生かされていたかをコメント評価した。

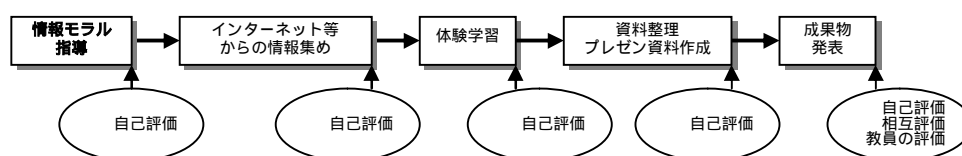


図3 各評価の時期

情報モラル指導後の自己評価

表4のように各学年ともすべての生徒が今回の事前指導が探求活動に生かせると評価した。3年生の情報モラル指導では、模擬的にプレゼンテーションを行わせたことによって、聞き手に配慮したスライド作成方法や、画像や資料の出典を明記すること等の知識を生徒に与えることができたと考えられる。

情報収集後の自己評価

インターネットでの情報検索では、表5のように各学年40人以上の生徒が適切に情報収集を行ったと評価した。できなかった生徒には、コンピュータ操作に戸惑い、思い通りに操作できない傾向が見られた。

体験学習後の自己評価

取材時のマナーについては、表6のように学習した知識が態度として顕著に表れた。校外学習先で写真撮影許可や、資料や取材メモの発表会使用許可もしっかりと行っていた。

プレゼンテーション資料作成後の自己評価

パワーポイントでの資料作成は表7のように1年生の事前学習では取り上げられていないため、他学年よりも低い評価となった。3年生では実際にプレゼンテーションを行う事前指導を行ったため、47人中45人の生徒がとてもよくできたと自己評価した。

表4 今後の活動に生かすことができるか

	とてもできる	少しできる	できない
1年生	37人	4人	0人
2年生	41人	5人	0人
3年生	45人	2人	0人

表5 適切な情報収集を行えたか

	よくできた	できた	できなかった
1年生	36人	6人	4人
2年生	33人	5人	3人
3年生	37人	7人	3人

表6 体験学習時にマナーとルールは守れたか

	よく守れた	守れた	守れなかった
1年生	45人	1人	0人
2年生	38人	2人	1人
3年生	43人	3人	1人

表7 プレゼン資料を適切に作成できたか

	よくできた	できた	できなかった
1年生	30人	13人	3人
2年生	36人	5人	0人
3年生	45人	2人	0人

表8 マナーとルールを守ったプレゼンができたか

	よくできた	できた	できなかった
1年生	33人	6人	7人
2年生	30人	9人	2人
3年生	40人	6人	1人

表9 発表者のマナーとルールは守られていたか

	とても守られていた	守れていた	守れていなかった
1年生	30人	12人	4人
2年生	34人	4人	3人
3年生	40人	5人	2人

学習成果物発表後の自己評価・相互評価

学習成果物発表時の自己評価では、表 8 のように 1 年生では、プレゼンテーション時におけるマナーとルールについての指導を行っていないため、適切な作成について他の学年よりも低い評価となったが、2 年生では 41 人中 39 人、3 年生では 47 人中 46 人がマナーとルールを守ったプレゼンテーションが行えたと評価した。生徒間の相互評価では、表 9 のように 1 年生 36 人中 42 人、2 年生 41 人中 38 人、3 年生 47 人中 45 人の生徒がマナーとルールについて守られていたと評価した。

教員によるコメント評価

探求活動の終了後、小グループ指導担当教員に対して、生徒らの活動状況について、前年度と比較した違い等を自由記述でコメントしてもらった。

主に 1 年生の生徒割合が多いグループを担当した教員からは、「調べる内容を分担し、同一の内容を複数のホームページから情報収集し、グループ内の生徒同士で複数の情報を比較検討し合う姿や、プレゼンテーション資料作成時に、画像の出所の明記方法について、グループ担当の教員に確認する場面も見られた」というコメントがあった。事前指導の内容が 1 年生の活動態度として表れたと評価できる。

「校外学習では、訪問先相手に対して施設や人物の写真撮影許可を取る姿勢が見受けられ、不用意に人物が写真に写らないように生徒同士で注意しあっていた場面も見受けられた。また、校内発表で頂いた資料やメモをプレゼンテーションに用いるための許可を取る姿も見られた。」というコメントや「前年度までは個人での活動であったため、探求活動では生徒同士の情報交流の場はなかったが、本年度は、グループ活動としたことで、生徒同士の学び合いの場が形成された。情報モラルに関する内容を生徒同士や教員に相談する場面も見られた」というコメントがあった。このことから、学校全体で情報モラルの取り組みがなされていたといえると評価できる。

5. おわりに

探求活動の事前指導として情報モラル指導を行った結果、多くの生徒が情報モラルの事前指導を生か

した探求活動や学習成果物発表を行うことができた。情報モラルの意識の程度には生徒によって差があったが、ほぼすべての生徒が情報モラルの事前指導を意識した活動を行うことができた。また、事前指導としての情報モラル指導は著者の 1 人（八木橋）が行ったが、探求活動ではグループ担当教員が情報モラルに関する指導を行うことができた。そのため、本研究で実践した情報モラル指導は、総合的な学習の時間の事前指導として、1 つの方向性を与えるものだと考える。

付記

本研究は、2005 年度文部科学省「情報モラル等指導サポート事業」の一環として行った⁽³⁾。

謝辞

研究に対する貴重なご助言、ご援助をいただきました、金城学院大学長谷川元洋助教授に深く感謝いたします。

本実践にあたって、多大なるご協力頂きました、北海道芦別市立啓成中学校植田直人教諭に深く感謝いたします。

参考文献

- (1) 北海道空知教育センター(2005)：「情報教育」に関する研究
- (2) 北海道芦別市立啓成中学校(2004)：平成 16 年度研究紀要、総合的な学習の時間「探求」の考察
- (3) コンピュータ教育開発センター(2005)：情報モラル等指導サポート事業・実践研究協力校・北海道芦別市立啓成中学校

http://sweb.nctd.go.jp/g_support/school/c_hk.html